

としまち研掲示板

△▼△としまち研 各部会の次回開催予定△▼△

共同建替え部会	6月 未定
コーポラティブハウス部会	6月 23日(月)
団地・マンション再生部会	6月 19日(木)
人と暮らし部会	6月 17日(火)
総務部会	
広報部会	

としまち研会員の方であれば誰でも部会に参加できますので、是非ご参加ください。

☆プロジェクトニュース☆

- 九段南コーポラティブハウスⅡ  
8月末引渡し予定です。
- コーポラティブハウス羽根木公園  
管理会社の選定中。これから管理規約等の検討に入ります。
- ジークレフ駒場マンション建替え  
管理会社が決定しました。管理規約や使用細則の検討に入っています。

としまち研第14回総会を開催しました

5月22日(木)、一般財団法人首都圏不燃建築公社の谷正隆理事を来賓にお迎えして、としまち研の第14回通常総会が開催されました。今年、秋田で活動されているとしまち研の会員数名も総会にもご参加いただき、参加者は正会員・賛助会員等合わせて38名でした。総会には、と言っていつもお久しぶりに顔を出してくださる方もいらっしゃり、懇親会では、皆さんの近況をうかがうことができました。



第14回通常総会



「こっぼら土澤」見学の様子

「こっぼら土澤」訪問

5月10日(土)の被災地研修・視察ツアー内で、花巻市東和町土沢地区にある、「こっぼら土澤」を見学させていただきました。元地権者の及川ご夫妻、区分所有者の今泉ご夫妻に建物をご案内いただくとともに、お話をおうかがいしました。

としまち研会員募集

としまち研では、活動に参加して下さる方(正会員)や活動を応援して下さる方(賛助会員)を募集しています。

詳しくはとしまち研のホームページをご覧ください。

まちづくりのご相談は事務局へ

○借入金があるが何か建替えの方法はあるか。  
○お隣りも建替えを考えているようだが共同建替えは自分たちでは調整できない。  
というような難しいご相談も検討します。  
お気軽にご相談ください。

編集後記

よく、忙しければ忙しいほど、余計なことに目が行ってしまい、ついつい現実逃避を…ということがありますが、先日のとしまち研総会の写真を整理していて、過去の総会写真が目につきました。皆さん、確実に年をとっています。としまち研も確実に高齢化しています。

被災地研修・視察ツアーの報告を特集として掲載しましたが、紙面が足りず、いただいたもの全てを載せることができませんでした。せっかくいただいたレポートなので、取りまとめをしたいと思っております。まだ提出がお済みでない参加者の方、おいらのまちにこだわらず、お待ちしております。(事務局 飛澤)

〒101-0042 東京都千代田区神田東松下町33 COMS HOUSE 2階  
tel 03-5207-6277 fax 03-5294-7326  
E-mail info@tmk-web.com ホームページ http://www.tmk-web.com/  
皆さまからのご意見、ご感想をお待ちしております。

としまち研現在の会員数  
正会員 60人 賛助会員 36人  
編集発行人 平石郁夫  
事務局担当 飛澤玲奈

としまち研会報 第69号

おいらのまち

2014.5

発行 NPO 都市住宅とまちづくり研究会 理事会

東矢本駅北地区の名称は「あおい」に！

「おいらのまち」読者の皆さまには、お馴染みとなった東松島市東矢本駅北地区は、名称選考委員会(総勢20名で、そのうち5名は中高生)で「新しいまち」の名称案を募集し、当初140点の応募がありましたが、その後、決定する名称は“大字”となること、即ち、「東松島市〇〇〇」という住所表記になることが明確になったため、追加募集を行い、プラス153点の応募がありました。

名称選考委員会で293点のなかから10点に絞り、協議会員世帯と現在、同地区にお住いの世帯に、どの名称がよいかの「投票」をしてもらいました。その結果、368票の投票がありましたが、投票結果は、第1位「あおい」、第2位「あゆみ野」、第3位「結町(ゆいまち)」となりました。

その後、名称選考委員会で最終の決定方法について悩んだ末、出席委員14名による決選投票を行い、東矢本駅北地区の名称は、半数以上の票を獲得した「あおい」に決定しました。

今後は、東松島市が震災前から進めていた「地区自治会制」のなかで、「あおい」地区の自治組織づくりをめざしていくことになります。

移転先の田んぼにはだいぶ土が入り、西北の第Ⅰ期の災害公営住宅47戸は造成工事が終了し、建築工事がはじまっています。東矢本駅北地区改め、あおい地区まちづくり整備協議会の皆さんは、ときどき工事の進捗状況を確認しながら、現在、災害公営住宅の住戸位置決めの手続きに入っています。



本格的に建築工事が動き出した災害公営住宅第Ⅰ期(5月28日現在)

第Ⅰ期、第Ⅱ期、第Ⅲ期そして第Ⅳ期と完成・引渡し時期が違うため、どうしても早くできる第Ⅰ期に希望が集中する傾向があります。協議会は、そんななかでもできるだけご希望をうかがい、重複したら空いているところに変更希望を出してもらい、さらに重複するようであれば、話し合いをする。話し合いが平行線ならば抽選も止むを得ないという基本方針で進めています。

仮設住宅などの仮住まいから一日も早く移転できるように、という願いとともに、新しいまちが若いも若きも明るく、安全・安心で、楽しく暮らせるまちになることを願って、としまち研は引き続きがんばります。(としまち研理事長 杉山昇)

おいらのひとりごと

『おいらのひとりごと』はとしまち研会員によるリレー形式のエッセイです。

『日本酒』としまち研 山崎裕之

日本酒の温度について面白いことが新聞に書いてあった。お酒は5度程度：雪冷え、10度程度：花冷え、15度程度：涼冷え、その上の温度が常温=冷やと呼ぶのだそうだ。

熱燗はぬるい方から、日向燗、人肌燗、ぬる燗、上燗、熱燗、飛び切り燗と言うらしい。日本語は文字を見ただけで様々な情景が想像できてしまう。また、お酒の温度一つにもこれだけの美しい表現がある日本語の巧みさに驚かされてしまう。日向燗などと聞くと、天気の良い日に明るいうちから、三陸のウニとシャコの刺身で一献傾けたくてしまう。

先日の被災地ツアーで、早朝から温泉に入った後、ベランダで美味しそうにビールを飲んでいただいたそう。きっと湖畔に映える朝日と新緑を望みながら、雪冷えのビールを飲んでいただいたのではないのでしょうか。

肴は炙ったイカかな…。

※次号の『ひとりごと』は真木邦支さんです。お楽しみに。

一木会ご報告 (原則、毎月第一木曜日に COMS HOUSE で行う勉強会・交流会です)

★第224回一木会 (2014. 4. 10)

国土交通省国土技術政策総合研究所住宅研究部環境計画研究室室長/筑波大学大学院システム情報系教授の長谷川洋氏に、福島県内の地震・津波被災者向けの災害公営住宅の①整備の現状とこれまでの課題、②仮設住宅から恒久住宅への移行に係るこれからの課題、③原子力災害による福島県内の被災自治体の現状、④長期避難者の生活拠点形成に向けた取り組みとこれからの課題など、大変考えさせられるお話をいただきました。



★第225回一木会 (2014. 5. 8)

旭化成不動産レジデンス(株)マンション建替え研究所主任研究員の太木祐悟氏に、モンゴル国の都市問題についてお話をしてもらいました。「ゆったりした遊牧民族の国家」という認識はすでに間違いで、ここ15年くらいで首都ウランバートルに人口が集中、郊外のゲル地区でも住宅やインフラなど様々な問題がでてきているとのことでした。古い認識を改めるよい機会となりました。



今後の一木会予定

- ☆6月(6月5日)【第226回一木会】 株式会社リプラン 事業企画部部長 樋口勝一氏 「新築分譲マンションに自然素材を使う」
☆7月(7月3日)【第227回一木会】 NPO法人おっちらボ 事務局長 銀鏡佳氏 テーマ未定
☆8月の一木会は、公開勉強会を企画中です。お楽しみに。

(仮称) 九段南コーポラティブハウスⅡ 建物名称は『九段千鳥ヶ淵テラス』

8月末の引渡しを予定している(仮称)九段南コーポラティブハウスⅡですが、4月6日(日)の建設組合の総会にて、建物名称が、『九段千鳥ヶ淵テラス』に決定しました。

名称案の募集は、早い段階から始めていたのですが、なかなか決定の機運が高まらず。ようやく3月末に提案の最終締め切りをし、最終的に応募数は37点となりました。

総会当日までの事前投票により、2票以上の票を集めた16案に絞込みを行い、総会当日は出席者による投票を行いました。絞り込んだ案に残った名称を提案された方数名からは、提案名称に対する思い入れについての最終プレゼンを経て、投票作業に入りました。2度の投票を行い、最終回の投票結果で上位2案の票差は3票、結果に異議なく1位となった『九段千鳥ヶ淵テラス』が誕生しました。

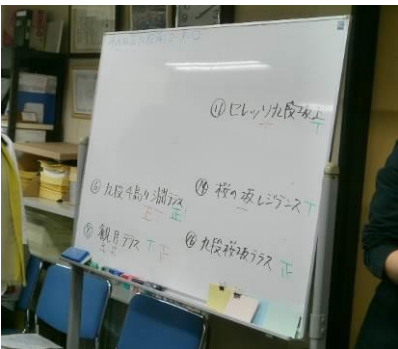
決定直後は『淵』という字の書き順について、バランスについて、「どう書くの?難しい。」という声も聞かれましたが、現在検討中の管理規約案に実際に記載してみると、とても気品高く感じます。同じ町内の「坂の上テラス」に引けを取らない建物名称にしようという組合員の想いは、これで達成できたのではないのでしょうか。



懇親会の様子

総会には、あまりご家族連れで参加されない世帯が多いのですが、総会終了後の懇親会には、奥様、お子さんも多く参加され、とても賑やかな時間を過ごすことができました。九段千鳥ヶ淵テラスは、これから、さらに子供が増えるというおめでたいニュースもありました。

工事の遅れで組合員の皆さんには大変ご迷惑をおかけしているのですが、ようやく6月末には上棟します。本設のエレベーターが稼働する頃、組合員の屋上見学会と、建設組合最後の懇親会を予定しています。



2回目の投票結果です

(としまち研事務局 飛澤玲奈)

としまち研被災地研修・視察ツアーを終えて

5月9日(金)~11日(日)に「としまち研 被災地研修・視察ツアー」と題し、福島・宮城・岩手の被災状況や災害公営住宅、集団移転先の状況視察と、少しだけ観光も兼ねたツアーを開催しました。

最初の二日間は5つの災害公営住宅(愛宕東地区、山元町、鳴瀬庁舎前、小野駅北地区、女川町陸上競技場跡地)と5つの地区の集団移転先の様子(新地町、岩沼市玉浦西地区、東松島市野蒜地区、東松島市あおい地区、気仙沼市小泉地区)、その他にも震災の恐ろしさを後世に伝えていく各地区の震災遺構(女川町交番、大川小学校、南三陸町防災庁舎、奇跡の一本松など)を回るという少し詰め込みすぎ?の行程となりました。

各視察先やバスの車窓を流れる沿岸部の状況は、震災から3年という月日が経過し、まだまだではありませんが、着実に進んでいる災害復興の一端に触れることができました。神田を出発し最終目的地である岩手県花巻市まで、移動距離が長く、旅先ではドタバタする場面もありましたが、ご参加いただいた方々の助けもあり、としまち研らしい視察ツアーとなりました。

参加された皆さんから、レポートをいただきましたので、一部ではありますが、特集として掲載いたします。(としまち研事務局 岩ヶ谷充)



女川町の災害公営住宅にて



女川の復興状況の概要を聞きました

震災後初めて被災地を訪問した。3年以上の月日を経てもなお、震災の傷跡は癒えていないが、着実に復興の足音は聞こえてきている。

このツアーで人々の営み、自然との共存、日常のありがたさなど、当たり前と思っていたことを改めて考え直すきっかけになったように思う。(山崎裕之)

今回のツアーで改めて、防潮堤と原発、その他のことで、「理想論と現実論」に直面した。

①「防潮堤」...高さ7.2m長さ9.9kmの防潮堤を目の当たりにした時、そこに住む人々に身近な海がその場所から消えてしまったことに虚しさを感じた。

②「原発」...女川原発が停止している状況において、それに依存して生活している人たちの将来の生活再建が見えていないという話を聞いた。即原発ゼロは正論だと思う。しかし、「即」は理想論なのかもしれない。

③「想定外」...住まいの完成を待たず、知らないまちに住民が移転してしまっている現実。復興は元に戻すことではない。より良い未来形を実現することだ。(高杉春水)

少しずつまちの再興が進んでいる状況を目にして、明るい気持ちになるとともに、今も先の見えない暮らしの中にいる方もいらっしゃることを考えたり、今も残る震災の爪痕を目の当たりにしたりすると、何とも言えない複雑な気持ちになりました。災害公営住宅などの建物見学では、建築のプロの方々と一緒にいたので、新しい視点で見学することができたのと同時に、お互いの知識を共有することにより、とても有意義な学びの旅となりました。(大瀬明子)



1日目の夕食:あおい地区まちづくり整備協議会 小野会長にお話をさせていただきました



「小泉地区の明日を考える会」事務局にて

気仙沼市「小泉地区の明日を考える会」事務局加納さんから、事業の進捗状況を聞かせていただいて、災害にあった方々の生活再建をするにも、家族の問題、自身の年齢、生活の糧、集団移転したときのコミュニティの維持等々、色々な課題を解決するための工程表、スピード感が大切であることが分かりました。

バスの窓から見る山間部での田畑が、手を入れられていない風景を見ると、住む場所ができて、生計を維持する場、日本の原風景に戻るには、まだまだ時間がかかると感じました。(谷正隆)